

5・6号Fタンクエリア フランジタンク使用ゼロに向けた対応方針

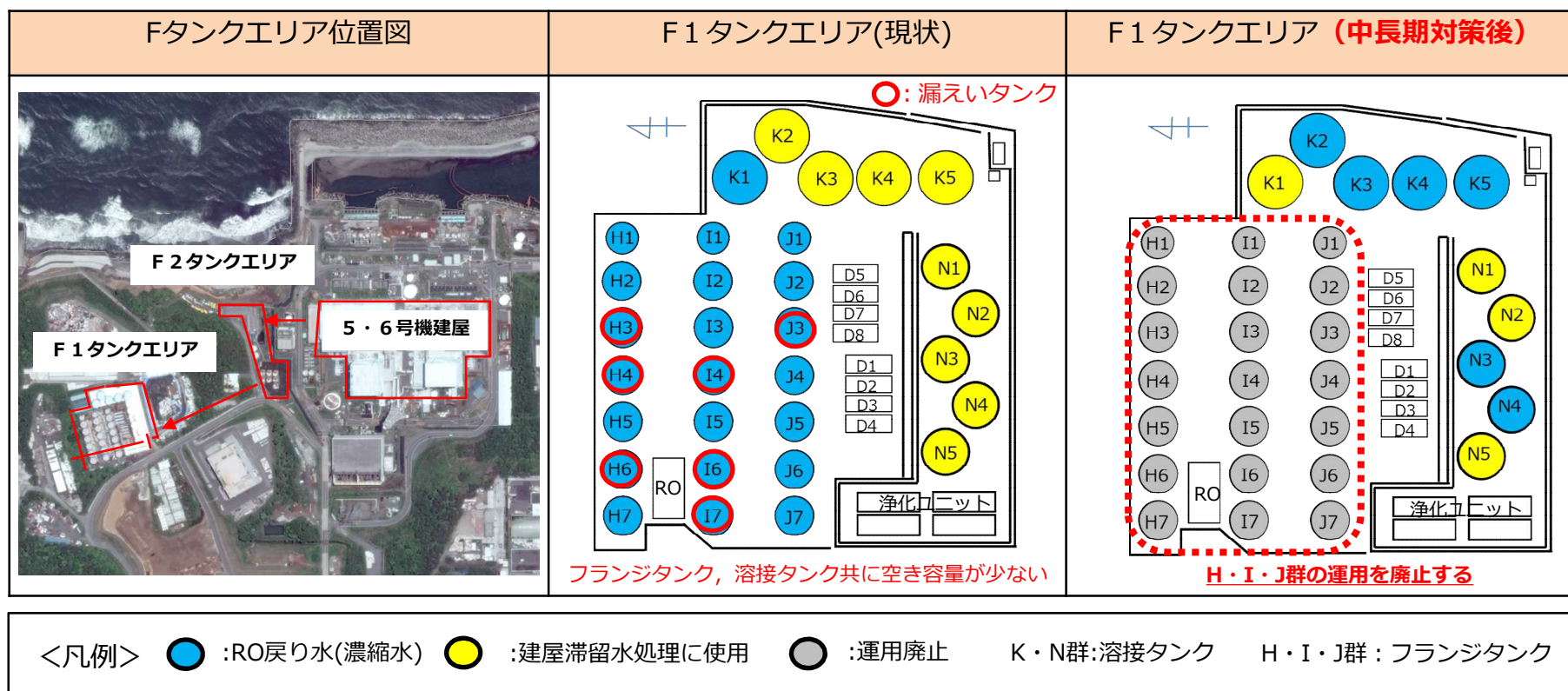
2021年7月29日



東京電力ホールディングス株式会社

1. 5・6号Fタンクエリアフランジタンク使用ゼロに向けた対応方針 **TEPCO**

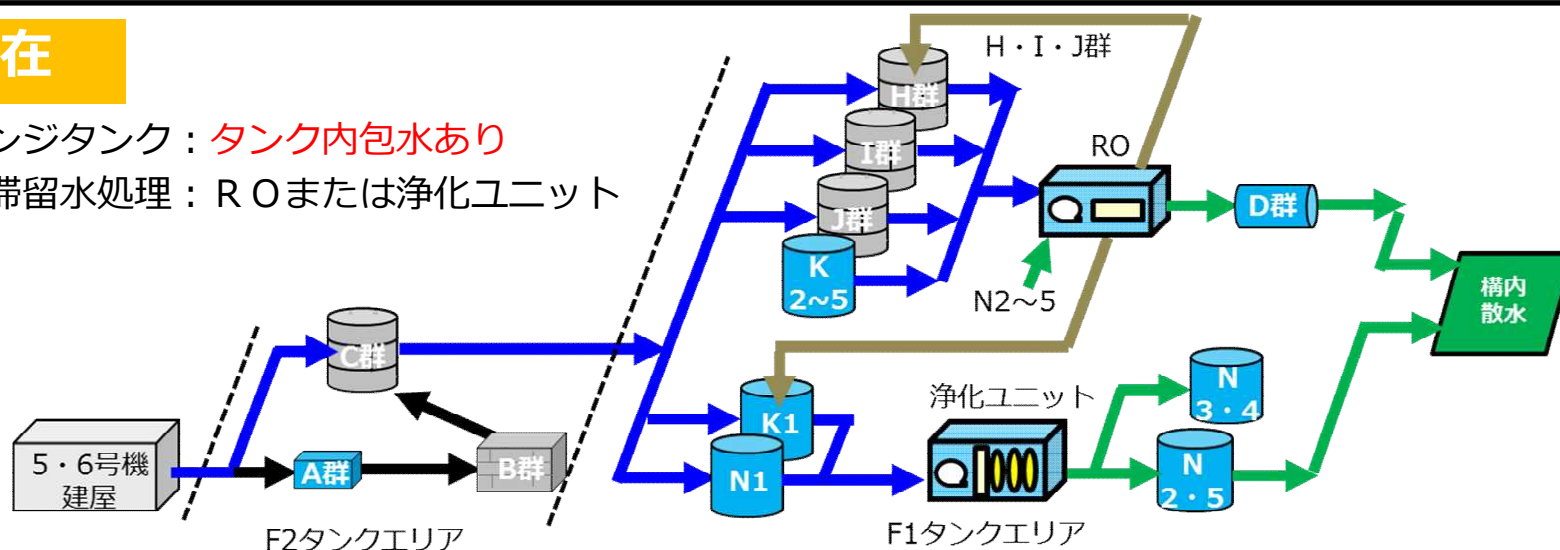
- 事象：Fタンクエリアのフランジ型タンク（H・I・J群）7基から漏えい発生
- 推定原因：経年劣化および地震（2021年2月13日等）による加振を受けフランジ止水材が機能低下
- 応急対策：漏えい箇所以下までタンク水位を下げ、止水材にて修理（2021年8月実施予定）
- 予防保全：フランジ継手部はパテ補修及び塗装を実施。ボルト・ナット部はコーキング処理および塗装を実施。（2021年度実施予定）
- **中長期的対策：フランジタンク運用を止める**
 - ・ H・I・J群を淡水化（RO）装置にて濃縮・散水 ⇒濃縮水を全て溶接タンクK2～5,N3・4へ貯留
(リスクも含め水バランス・工程など詳細検討中)
 - ・ フランジ型タンク（B・C群）の運用を止める



2. 中長期対策後の5・6号機滞留水設備の概略図

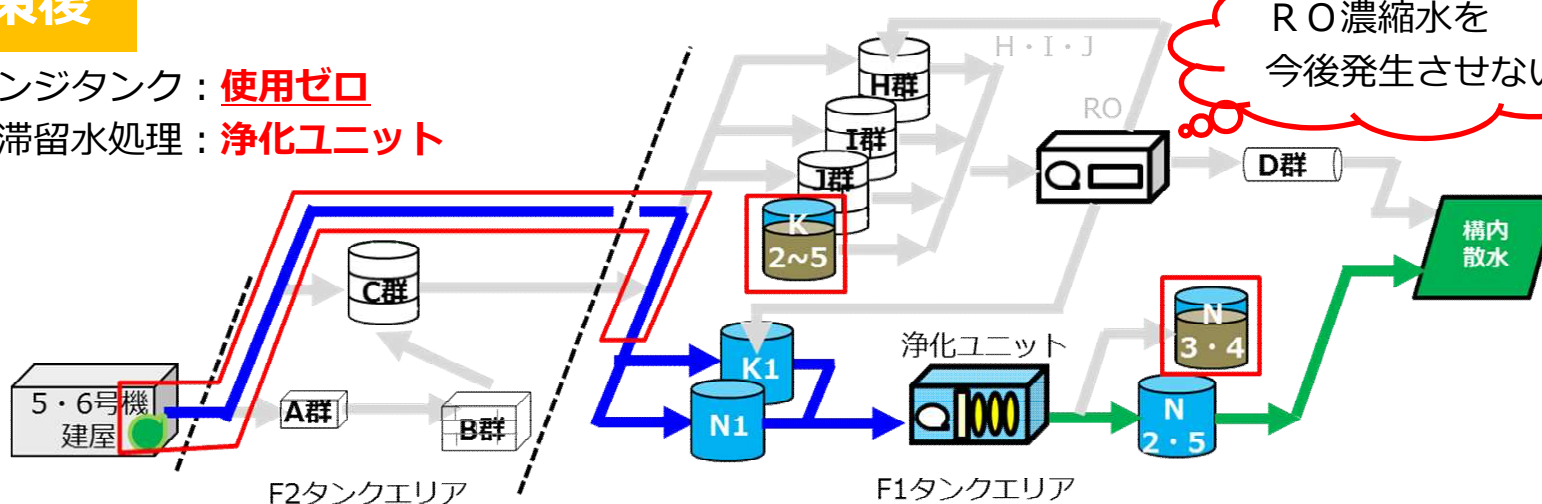
現在

- ・フランジタンク：タンク内包水あり
- ・建屋滞留水処理：ROまたは浄化ユニット



対策後

- ・フランジタンク：使用ゼロ
- ・建屋滞留水処理：浄化ユニット



<凡例>

■：滞留水 ■：処理水 ■：RO戻り水(濃縮水)



：フランジ型タンク

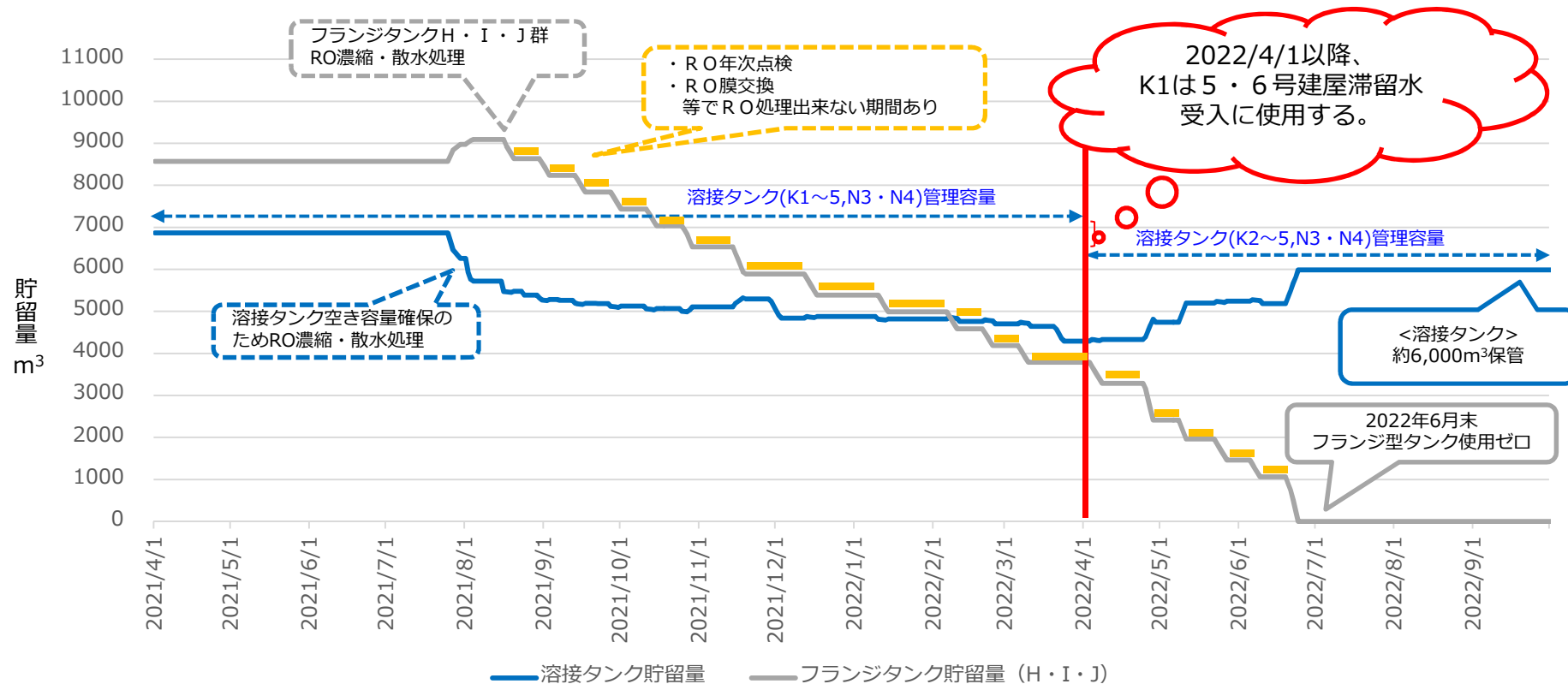


：溶接タンク

■ シミュレーションの前提条件

- ・ 建屋滞留水：浄化ユニット2系列運転（200m³/日）
- ・ タンク処理：RO濃縮・散水処理し、戻り水を既設溶接タンクへ貯留する。
- ・ RO：定例点検【膜交換等：約2週間に1回】を考慮。
- ・ 構内散水：浄化ユニット処理水とRO処理水を同時に構内散水しない・・・実施計画Ⅲ 2.2.2
- ・ 年間散水量：1日あたり80m³/日（※）「実施計画変更申請が必要」・・・実施計画Ⅲ 2.2.2

※現状は70m³/日：RO濃縮・散水処理の完了を早めるため、敷地境界線量の制限値内で散水量を増加しシミュレーションを実施した



● 線量評価

実施計画第Ⅲ章 3 編2.2.3 添付資料2「5・6号機滞留水処理済水の構内散水における被ばく評価」に記載のある評価手法に則り、散水量を70m³/日から80m³/日に変更した場合の敷地境界における一般公衆への実効線量を評価：約0.042mSv/年から約0.046mSv/年に増加

⇒ 敷地境界の実効線量合計（評価値）は、約0.93mSv/年となり、1mSv/年を下回る。

